

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.43	行	1行目
事業名	堤防補強		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	高槻市		地先	前島	

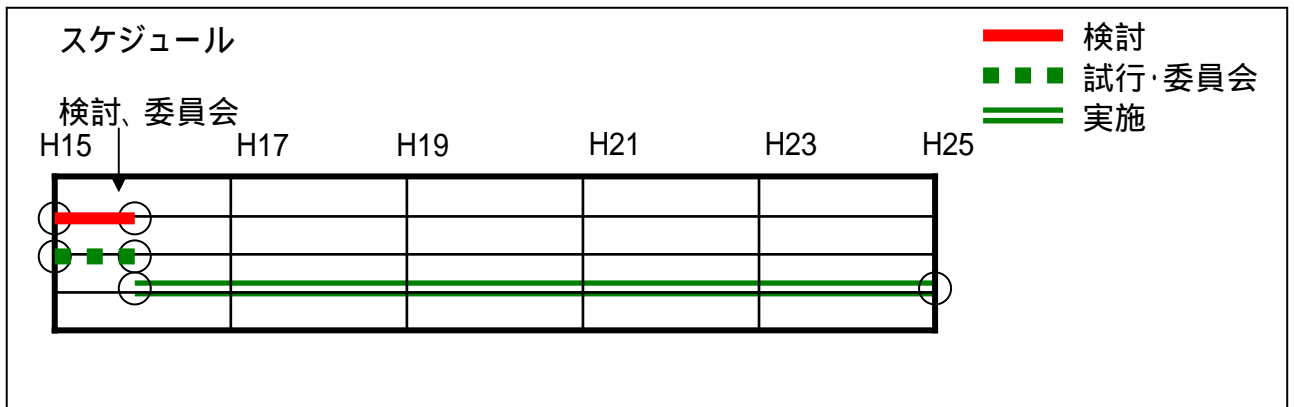
現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有しているとはいえない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

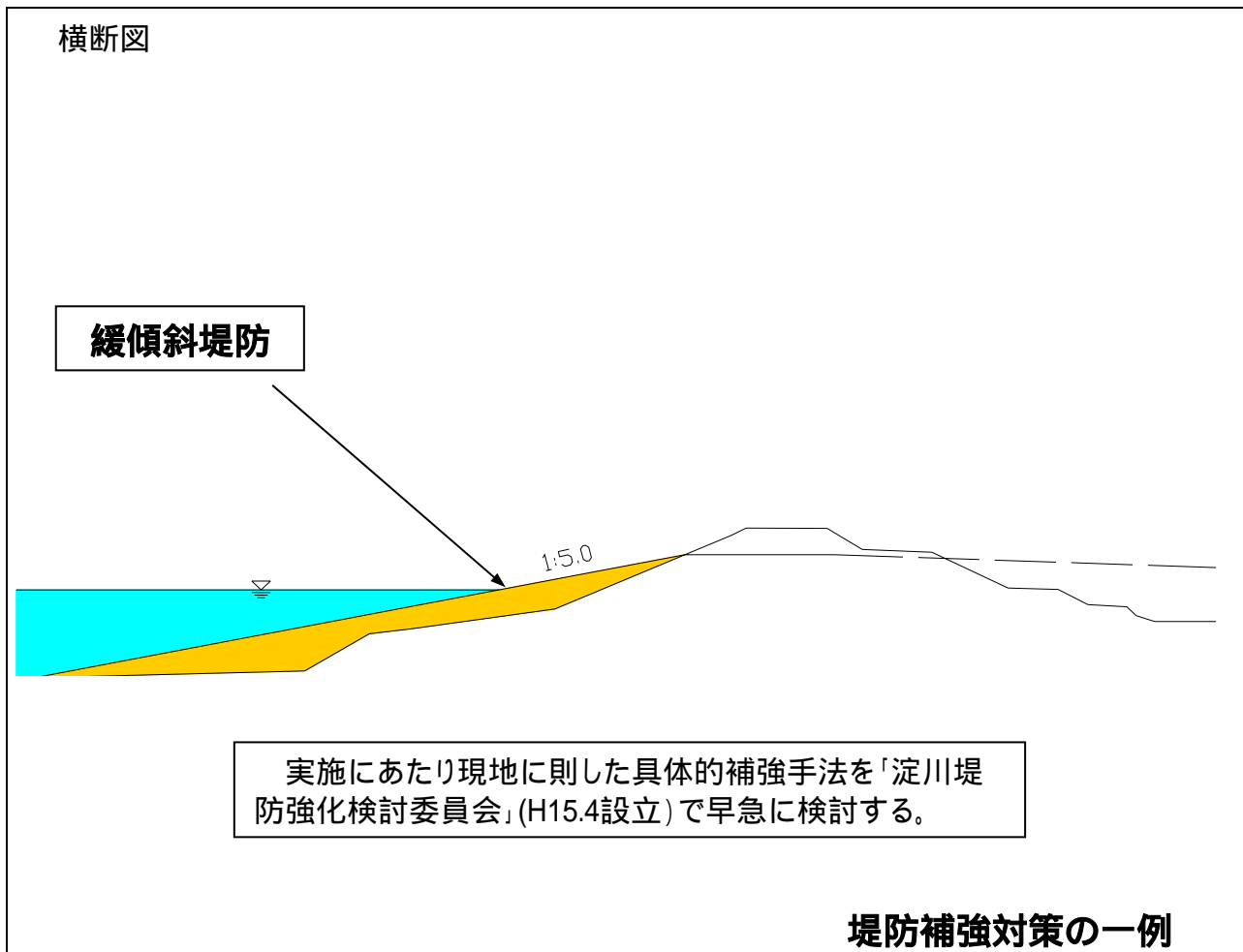
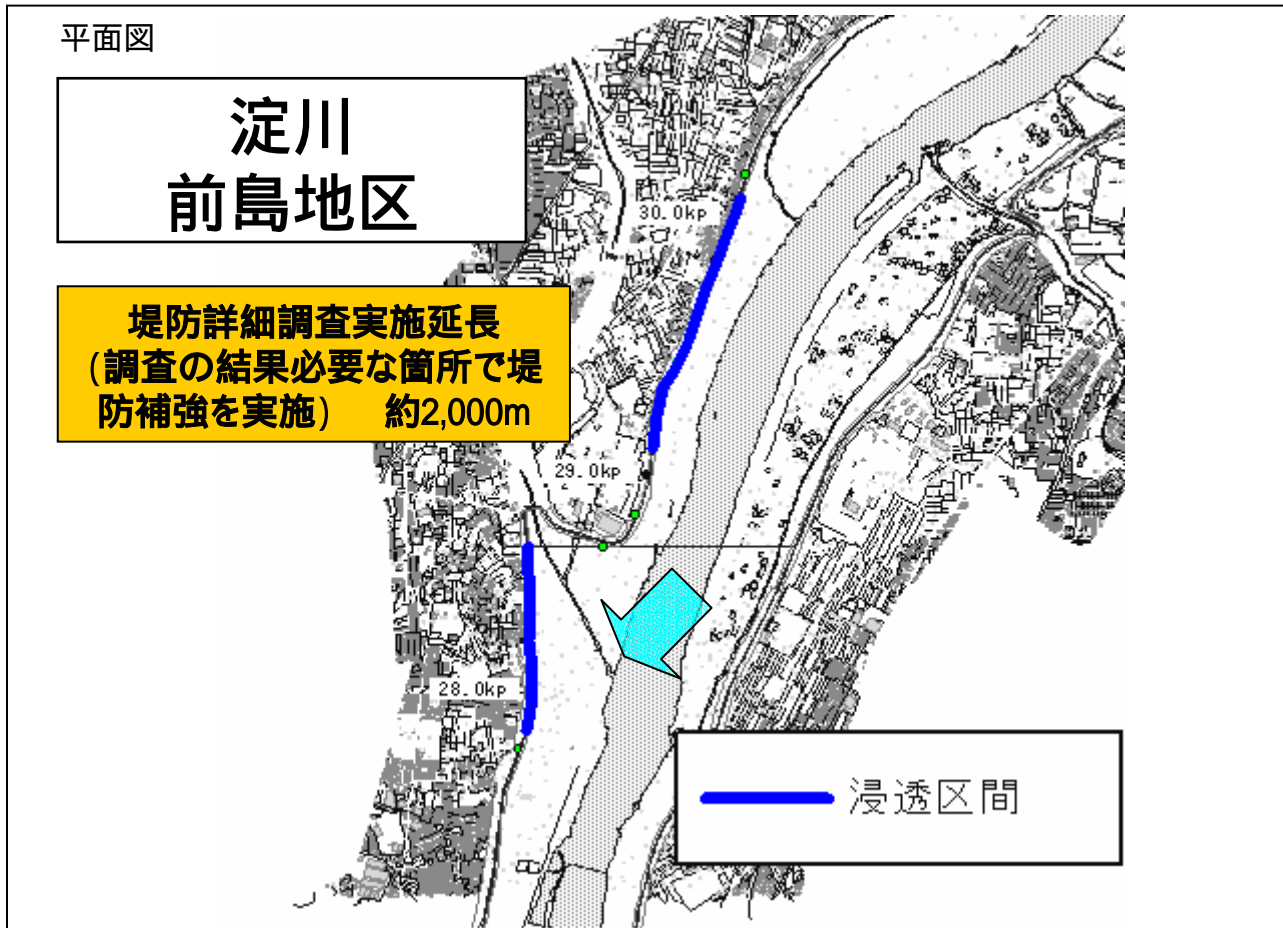
河川整備の方針
堤防補強
 高規格堤防の整備区間及びその他の区間において緊急な対策が必要な区間においては、堤防補強を実施する。併せて、対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施する。

位置図

具体的な整備内容
 ・堤防詳細調査実施延長
 (調査の結果必要な箇所にて堤防補強を実施) 約2,000m

・事業の数量・諸元等
 浸透対策 約2,000m

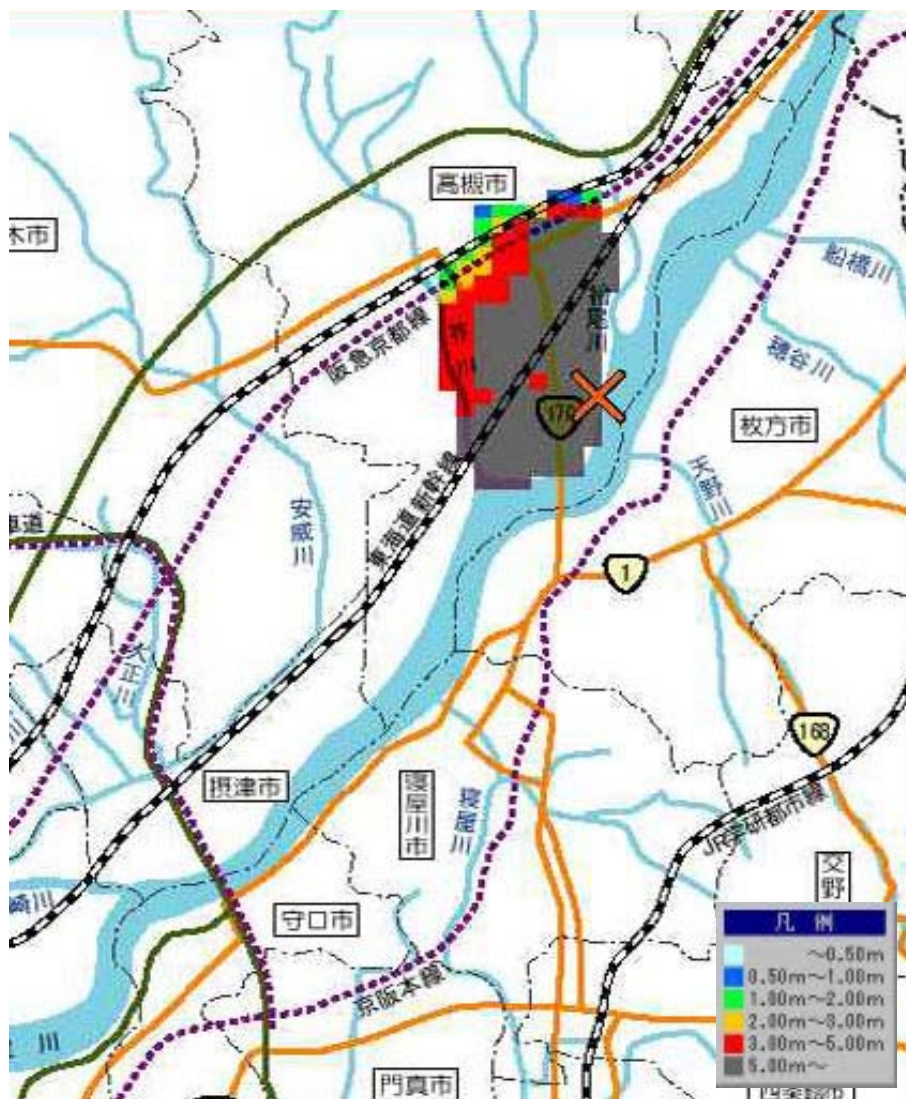




整備効果

現状河道でS28.13号台風実績降雨の2倍で計算した場合の流量による想定被害

被害額	26,222	(億円)
浸水面積	1,096	(ha)
被災人口	66,073	(人)
浸水家屋	23,931	(戸)



現地写真

上空



地上



基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.43	行	1行目
事業名	堤防補強		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	高槻市		地先	鶴殿	

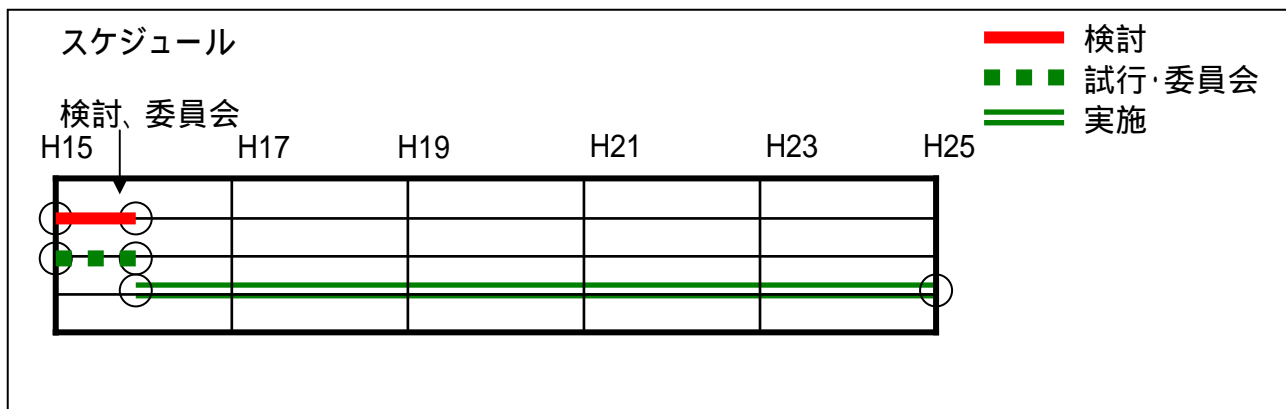
現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有しているとはいえない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針
堤防補強
 高規格堤防の整備区間及びその他の区間において緊急な対策が必要な区間においては、堤防補強を実施する。併せて、対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施する。

位置図

具体的な整備内容
 ・堤防詳細調査実施延長
 (調査の結果必要な箇所にて堤防補強を実施) 約1,200m

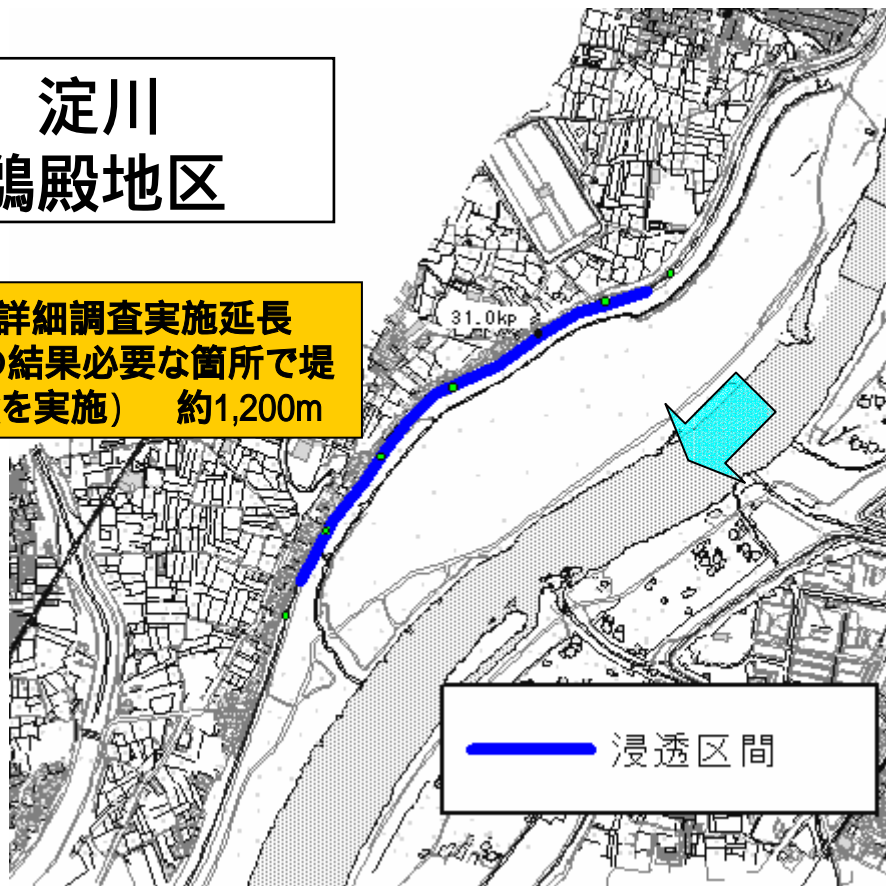
・事業の数量・諸元等
 浸透対策 約1,200m



平面図

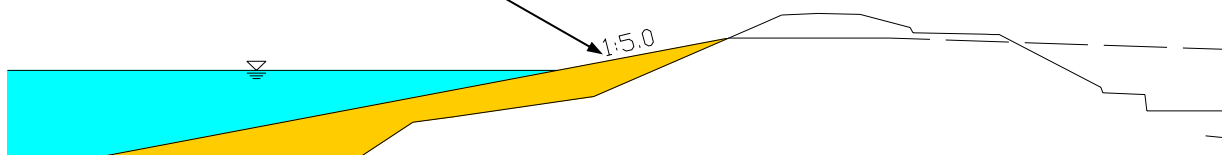
淀川 鵜殿地区

堤防詳細調査実施延長
(調査の結果必要な箇所で堤防補強を実施) 約1,200m



横断面図

緩傾斜堤防



実施にあたり現地に則した具体的補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(H15.4設立)で早急に検討する。

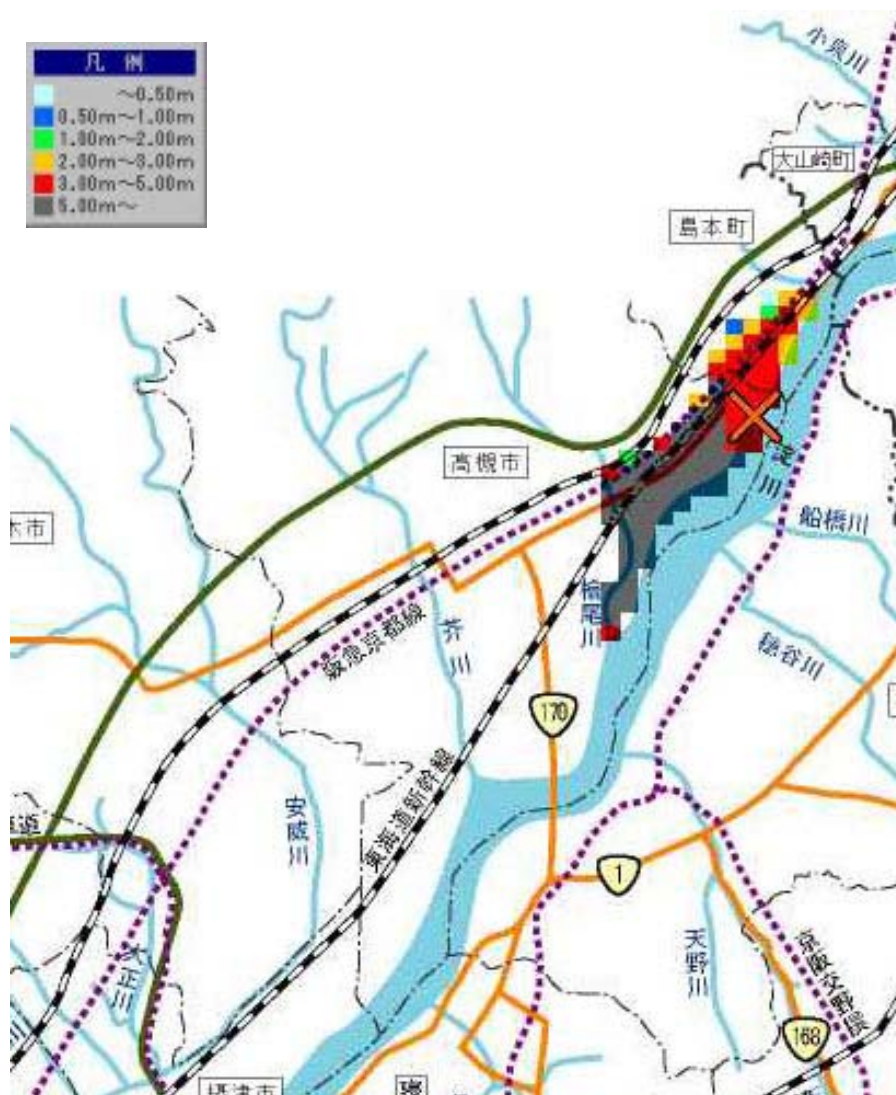
堤防補強対策の一例

【平成15年9月12日

整備効果

現状河道でS28.13号台風実績降雨の2倍で計算した場合の流量による想定被害

被害額	7,330	(億円)
浸水面積	594	(ha)
被災人口	17,925	(人)
浸水家屋	6,205	(戸)



現地写真

上空



地上



基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.43	行	1行目
事業名	堤防補強		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	高槻市		地先	上牧	

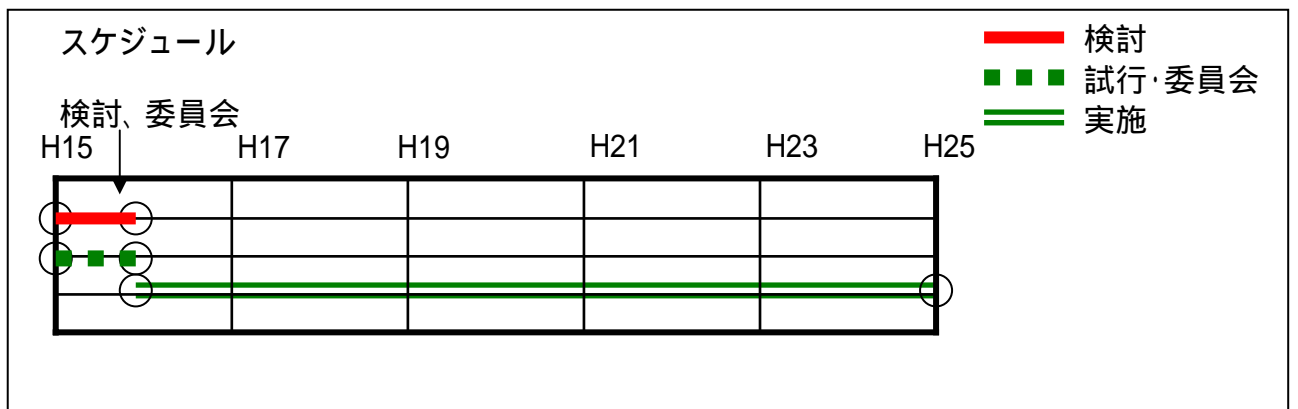
現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有しているとはいえない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針
堤防補強
 高規格堤防の整備区間及びその他の区間において緊急な対策が必要な区間においては、堤防補強を実施する。併せて、対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施する。

位置図

具体的な整備内容
 ・堤防詳細調査実施延長
 (調査の結果必要な箇所にて堤防補強を実施) 約1,500m

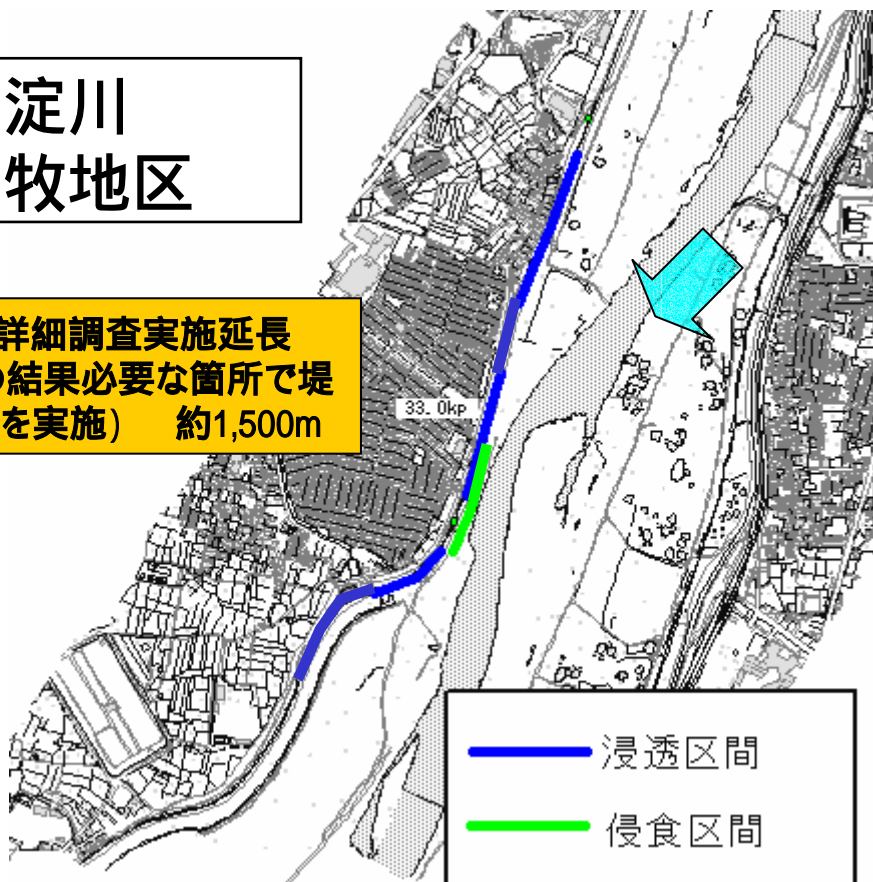
・事業の数量・諸元等
 浸透対策 約1,300m
 侵食対策 約300m



平面図

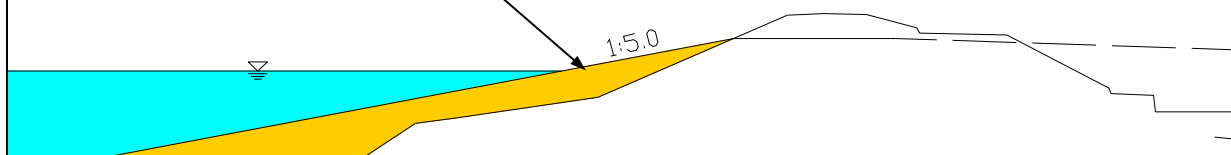
淀川 上牧地区

堤防詳細調査実施延長
(調査の結果必要な箇所
で堤防補強を実施) 約1,500m



横断面図

緩傾斜堤防



実施にあたり現地に則した具体的補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(H15.4設立)で早急に検討する。

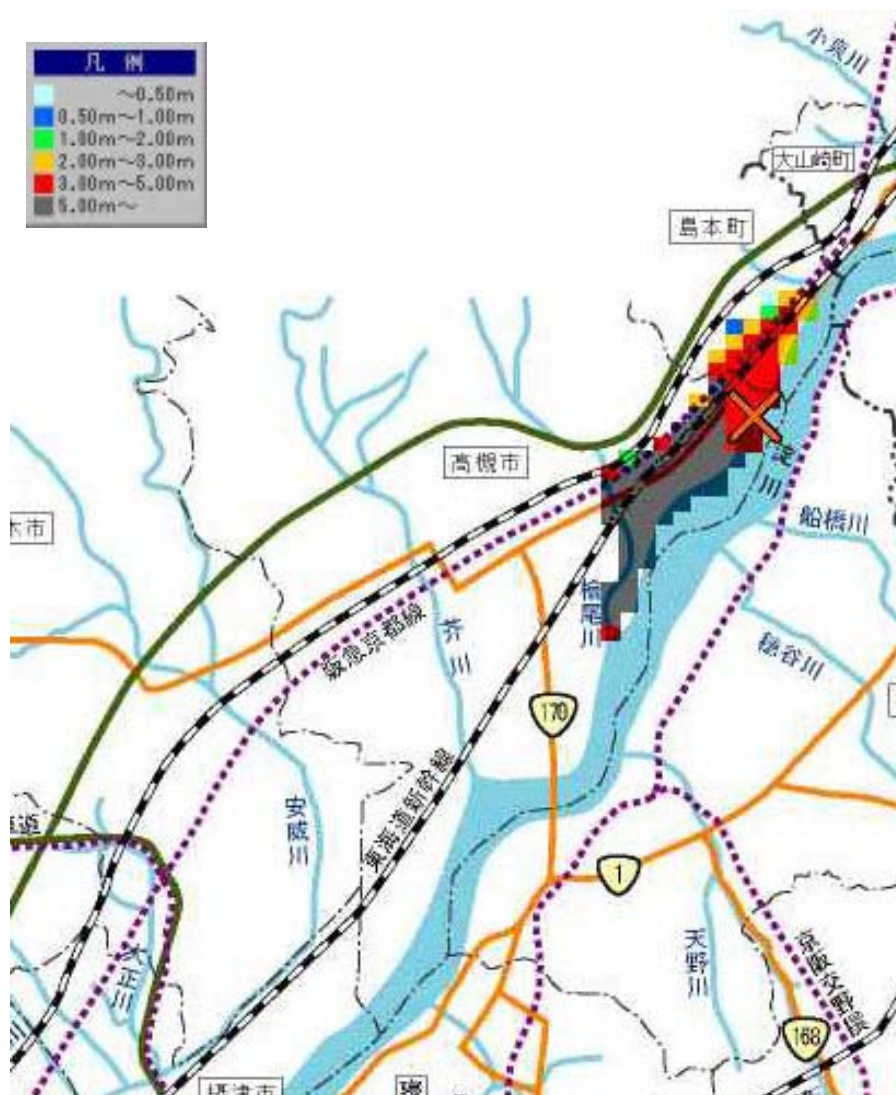
堤防補強対策の一例

【平成15年9月12日

整備効果

現状河道でS28.13号台風実績降雨の2倍で計算した場合の流量による想定被害

被害額	7,330	(億円)
浸水面積	594	(ha)
被災人口	17,925	(人)
浸水家屋	6,205	(戸)



現地写真

上空



地上



基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.43	行	1行目
事業名	堤防補強		河川名	淀川			
府 県	京都府	市町村	八幡市		地先	八幡	

現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有しているとはいえない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針
堤防補強
 高規格堤防の整備区間及びその他の区間において緊急な対策が必要な区間においては、堤防補強を実施する。併せて、対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施する。

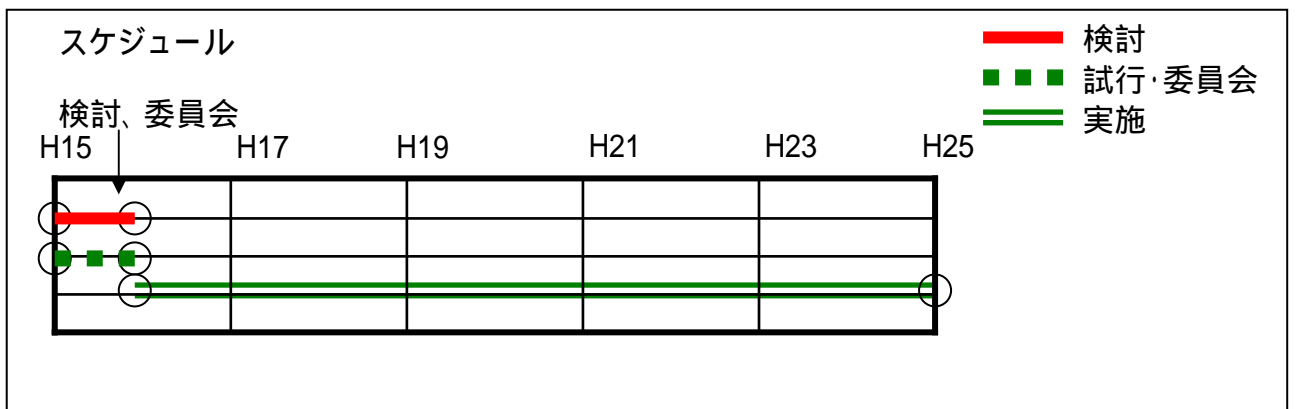
位置図



詳細調査実施箇所

具体的な整備内容
 ・堤防詳細調査実施延長
 (調査の結果必要な箇所にて堤防補強を実施) 約1,100m

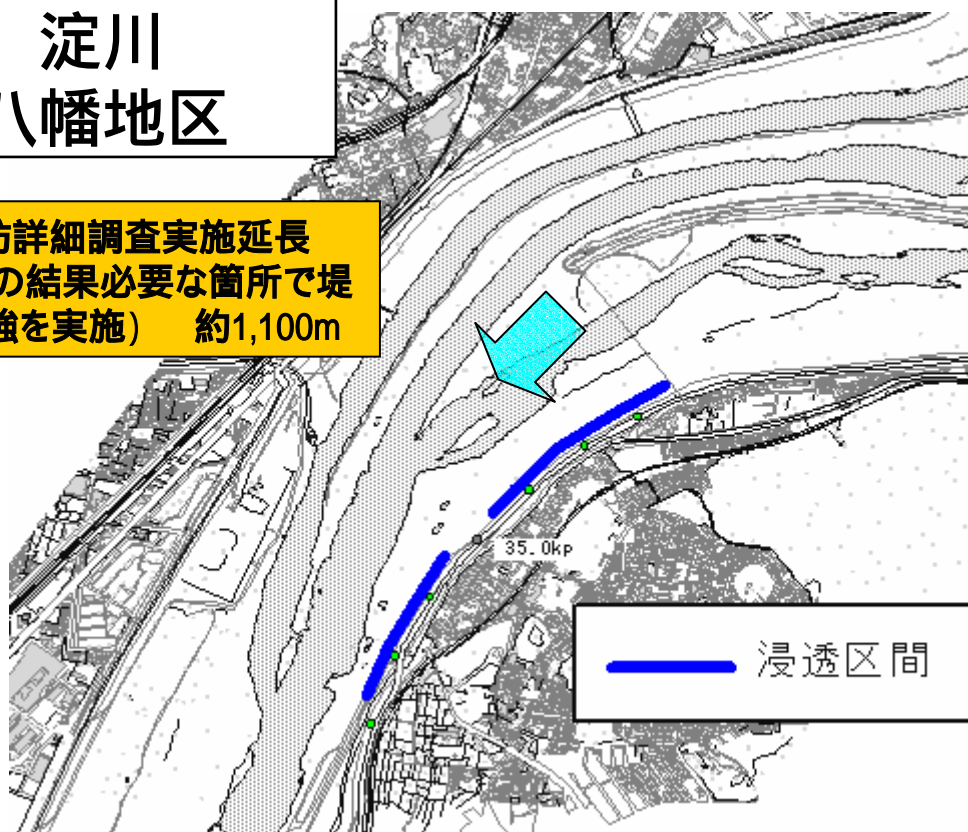
・事業の数量・諸元等
 浸透対策 約1,100m



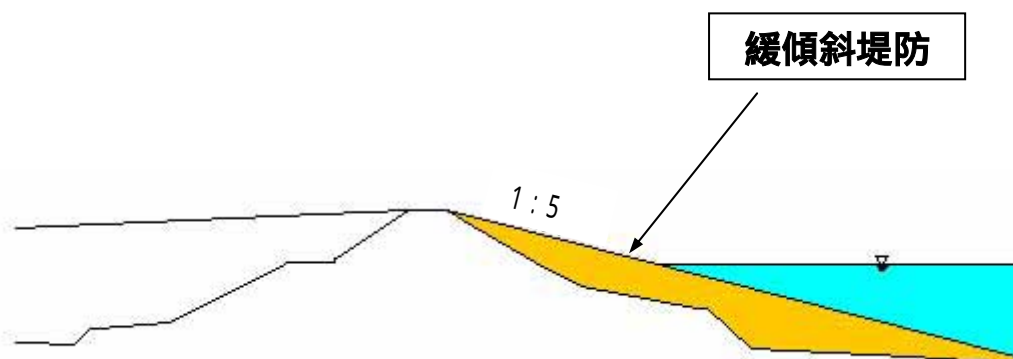
平面図

淀川 八幡地区

堤防詳細調査実施延長
(調査の結果必要な箇所で堤防補強を実施) 約1,100m



横断面図



実施にあたり現地に則した具体的補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(H15.4設立)で早急に検討する。

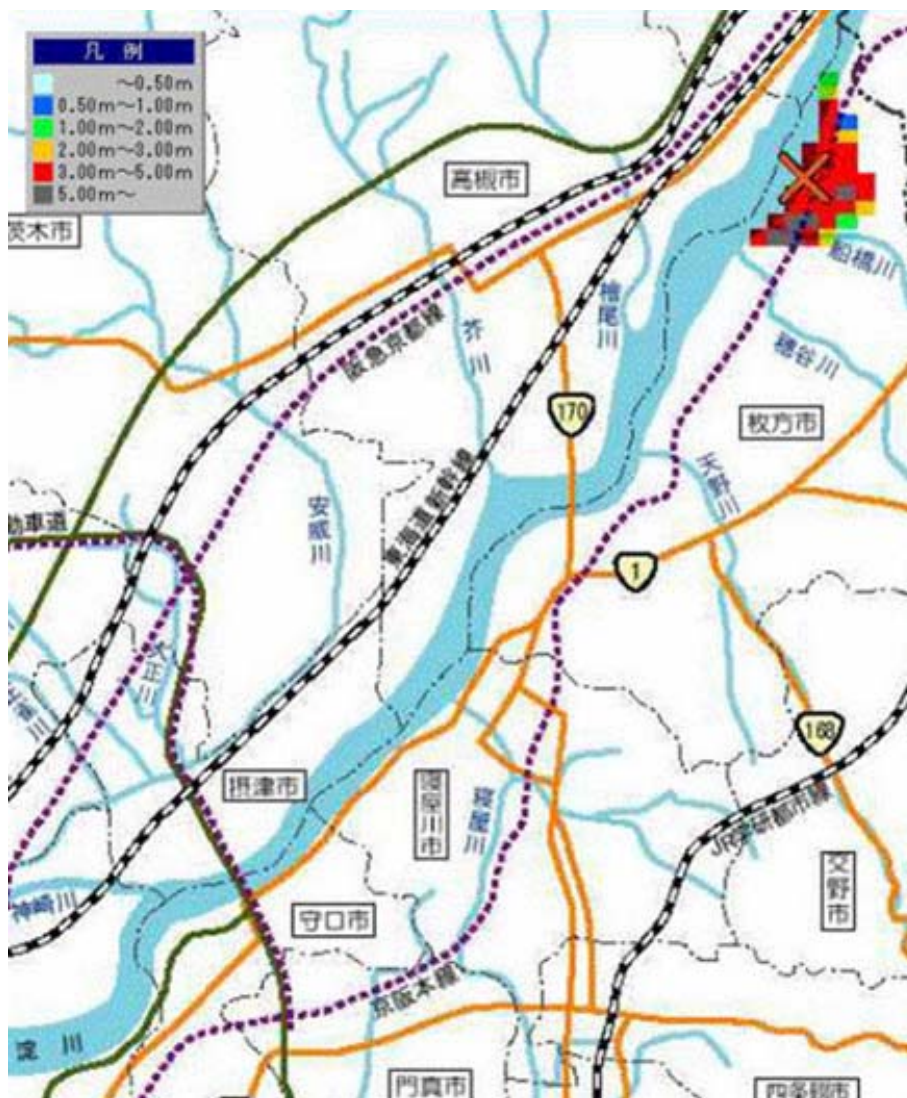
堤防補強対策の一例

【平成15年9月12日

整備効果

現状河道でS28.13号台風実績降雨の2倍で計算した場合の流量による想定被害

被害額	6,315	(億円)
浸水面積	251	(ha)
被災人口	17,709	(人)
浸水家屋	6,281	(戸)



現地写真

上空



地上

